

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 神戸市看護大学 実施報告書



実施主体 看護学部助産学専攻科9期生

実施内容 平成25年10月13日の竹の台ふれあいまつりにて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

参加者が3000人を超えることが予想される地域のまつりであったため、学生間で相談し、配布されたリボン以外にも準備することを決定し、学生間でオレンジリボンを作成した。すぐに参加者が付けることのできるように裏に両面テープを付ける工夫を行った。また、児童虐待に関する絵本の紹介がこの運動の効果を高めることを相談し、図書館等で検索し、絵本の準備を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

「ハンドマッサージ」「赤ちゃん抱っこ体験」とともに「オレンジリボン運動」のコーナーを設置し、立ち寄った参加者にリボンにシールを付けてもらい、リーフレットを渡した。同時に「竹の台ふれあいまつり」会場の小学校運動場である会場を巡回し、オレンジリボンやリーフレットを配布した。小さな子どもたちには、隣のコーナーで行っている「赤ちゃん抱っこ体験」も促し、小さな子どもたちが赤ちゃん人形を抱っこする体験のサポートをした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

(学生)「児童虐待のことを幅広い年代の方々に知ってもらい機会になってよかったと思う。」

「子どもたちにもリボンを配布して興味を持ってもらえたと思うが、オレンジリボンの意味などについて理解してもらえたかどうかは分からないと感じた。」

(専攻科)

「これから母子と密接に関わる助産師学生が、この運動に携わることで、責任を再確認したのではないと思う。また、地域のおまつりでこの運動を行うことで地域の方々の見守りが児童虐待を予防することにつながるなど、広い視野で児童虐待問題を捉える機会になったと考える。」

